

豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンター主催の「つながる防災・減災シンポジウム」で講演しました(2015/12/8)

テーマ：東日本大震災，南海トラフ地震，地域連携，企業防災
場所：穂の国とよはし芸術劇場プラットアートスペース

12月8日（火），穂の国とよはし芸術劇場プラットアートスペースにおいて，「震災に学び，地域がつながる，未来につながる」をテーマとした豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンター主催のシンポジウムが開催されました。シンポジウムの構成は，日本建築学会会長で京都大学防災研究所の中島正愛教授による基調講演「わが国防災・減災のこれから―求められる文理融合・地域の自立と連携・産官学民協調」と，3名のパネリストからの話題提供，そして総合討論で構成されました。当日は，地域防災や企業防災に関心の高い約150名が参加しました。

当研究所の佐藤健教授（情報管理・社会連携部門）は，パネリストの一人として「東北大学による被災地復興への取り組み」と題して講演を行いました。講演では，まず東北大学による被災地復興の取り組みの状況について，全学としての取り組み，部局としての災害科学国際研究所の取り組み，そして研究分野としての災害復興実践学分野による取り組みの概要が紹介されました。また，東北大学の震災発生直後の状況からこれまでの復旧・復興のあゆみについても紹介されました。

最後のパネルディスカッションでは，東日本大震災の教訓をふまえ，発生が危惧されている南海トラフ地震を想定した豊橋を含む東三河地域の地域防災力の高度化に向けて，豊橋技術科学大学に対する期待と果たすべき役割，産官学民の連携の重要性などが議論されました。



会場の様子



講演の様子



パネルディスカッション

文責：佐藤 健（情報管理・社会連携部門）